

**JJA
JEWELLERY
DESIGN
AWARDS
2011**



日本ジュエリーの最高峰を求めて JJA ジュエリーデザインアワード2011

時を超え人々の心を魅了してやまないジュエリーの数々。

ジュエリーは、創作する人の感性と装う人の感性が結びつき響き合うことによって生まれるアートと言えます。

真に美しい作品は国境を越え、人々の心に共感と感動を呼び起こします。我が国のジュエリーの歴史は決して長いものではありませんが、固有の美しい文化と伝統を背景に未来を見つめた新しいジュエリーを求めているかなければなりません。

“JJA ジュエリーデザインアワード2011”は、日本ジュエリー文化の高揚を目的に「世界へ発信できる日本ジュエリーの最高峰を求めて」をテーマに毎年開催されています。

JJA ジュエリーデザインアワードでは、カテゴリーでジュエリーを装うシチュエーションによって分類したところに特徴があります。

第1部門“フォーマルシーン”は、パーティーやフォーマルなど豪華でファッショナブルな装いに相応しい華やかさと気品に溢れたジュエリーとし、第2部門“カジュアルシーン”は、オフィスやプライベートな場面で自己の感性を表現し、遊び心を楽しませるような洗練されたジュエリーとしています。

また、第3部門“テーマ部門”では、昨年に引き続き「パールジュエリー」とし、真珠の魅力がデザイン、技術で表現されているジュエリーとしています。第4部門“新人部門”では、新人・学生を対象に自由な発想を持った既成の概念を打ち破る新しい大胆な発想のジュエリーと位置づけています。

JJA ジュエリーデザインアワードは、未来のジュエリー業界を担う新しい可能性を持つクリエイターたちの優れた作品を発信する場として、世界に向けた日本のジュエリー文化のさらなる発展を求め続けます。

会期／会場 ○2011年9月1日～9月3日
ジャパンジュエリーフェア2011 (JJF2011)
東京ビッグサイト 東2・3ホール
アワード入賞作品展示会場

[展示作品]

プロフェッショナルゾーン・新人部門共に、入賞作品及び特別賞含む全作品

○2011年9月21日～9月25日
香港ジュエリー&ジュムフェア
香港コンベンションアンドエキシビジョンセンター
ホール3 JJA 広報ブース

[展示作品]

プロフェッショナルゾーンの上位4賞及び第1部門から第3部門の優秀賞と佳作の12作品

○2011年10月15日～11月23日
箱根ラリック美術館
2階 企画展示室

[展示作品]

プロフェッショナルゾーン・新人部門共に、入賞作品及び特別賞含む全作品

主催
後援
社団法人日本ジュエリー協会
経済産業省
厚生労働省
東京都

協賛
社団法人日本ジュエリーデザイナー協会
社団法人日本真珠振興会
プラチナ・ギルド・インターナショナル

**JJA
JEWELLERY
DESIGN
AWARDS
2011**



ご挨拶



社団法人日本ジュエリー協会
会長

堀 奉之
Hori Tomoyuki

2004年度に、それまでは隔年開催であったデザインコンテストを、名称も「JJA ジュエリーデザインアワード」と改称をし、現在のような部門別の応募とするコンテストといたしました。

日本のジュエリーデザイン及び製作技術の発展とジュエリー文化の高揚を目的に実施され、これまでに世界に向けて発信できるデザイナーや作品を、数多く輩出してまいりました。

そうした中で、今年3月に見舞われた東日本大震災。デザインアワードにも影響が出るのではないかと大変心配をしておりました。

今年度は、第1部門「フォーマルシーン」第2部門「カジュアルシーン」第3部門「パールジュエリー」第4部門「新人部門」の各部門に応募を募りました。ところが応募作品数は、若干減ったものの、応募された作品はどれも個性的で魅力溢れる作品が多く、安心すると共に将来への期待を一層感じることができました。

ただ震災の影響か、作品のモチーフに“夫婦の絆”“家族の絆”を取り上げている人が今年は目立ちました。ジュエリーこそが、人と人の心を繋ぐ“絆の

アイテム”として社会的に再認識されていることに関わりがあるのではないのでしょうか。

それぞれ力作の中から、2011年度「日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞」、「厚生労働大臣賞」、「東京都知事賞」をはじめ各賞を決定させていただきました。

入賞作品につきましては、9月に開催される「ジャパンジュエリーフェア（JJF）」で発表、展示を行います。それに加え昨年は箱根ラリック美術館においても展示され、より多くの方々にご覧になっていただけの機会が増えました。

そして本年度はさらに、9月に開催される「香港ジュエリー&ジェムフェア」の、日本ジュエリー協会（JJA）のブース内に、受賞作品を含め10数点が展示されることに決まりました。新しい息吹を感じさせるジュエリージャパンブランドを世界に向けてアピールしてまいります。



社団法人日本ジュエリー協会
アワード実行委員会
実行委員長
梶 光夫
Kaji Mitsuo

日本ジュエリーの最高峰を求めた「JJA ジュエリーデザインアワード2011」が今年も開催され、全国から優れた作品が応募されました。

このアワードは世界に誇れる日本のジュエリーデザイン及び製作技術を発信する場とし、日本ジュエリー文化のさらなる高揚を目的として開催されています。

前年同様、第1部門「フォーマルシーン」、第2部門「カジュアルシーン」、第3部門「パールジュエリー」、第4部門「新人部門」として4つの部門を設けて作品を募りましたが、それぞれの部門で意欲的な作品が多数応募されました。

今回のアワードは、東日本大震災の影響で応募数が大きく減ってしまうことを心配しましたが、昨年より少なくなったものの119作品（216点）もの応募作品が集まりました。応募された方の中には地震

の影響で進行が滞ってしまい苦勞された方もいらっしゃるかと思います。そのような環境の中で完成した作品はジュエリーに対する気持ちが込められた素晴らしい作品になっていることと思います。

今年の応募作品は、応募者の意図や想いがとてもよく伝わってくる作品が多く、デザイン面から見て心が和むような安らぎや優しさを感じられる作品が多かったように思います。応募者が自然体でジュエリーと向き合い、自分の感性を最大限に表現し、創作に取り組んでいることが強く感じられました。

また、「絆」をテーマにし、ジュエリーは“人と人を結ぶ絆の証”であるというメッセージが込められた作品が応募されたことも今年の大きな特徴であったと思います。大震災という未曾有の出来事が発生し、日本では今「絆」という言葉で皆がひとつになろうとしています。ジュエリー業界でもジュエリー本来が持つ“bijou de famille”（家の宝石＝家族の絆が宝石に託され受け継がれる習慣）の認識が今また広まりつつある中、とてもタイムリーであり、これからのジュエリーに求められていくテーマであったと思います。

今回のアワード入賞作品は9月に開催されるジャパンジュエリーフェアで展示され、ステージでは華やかな作品発表のファッションショーと表彰式が行われます。

また、昨年より箱根ラリック美術館で受賞作品の

展示を始めましたが、宝飾作家・ガラス作家として一世を風靡した巨匠ルネ・ラリックとこれからのジュエリー界を担う受賞者たちとの美の響演はお陰様で大変ご好評いただき、引き続き開催することが決定し、今回は紅葉のとても美しい時期に皆様にご覧いただけることとなりました。

さらに9月には国際的な宝飾フェア「香港ジュエリー&ジェムフェア」の日本ブースに上位入賞者の作品が展示されることも決定しました。世界各国のジュエラーが集まる宝飾フェアで、デザインアワードの「世界へ発信できる日本ジュエリーの最高峰を求めて」というテーマのもとに選ばれた作品を世界にアピール出来ればと思っています。

今後もこのような多くの展示の機会を得ることによって、アワードの存在とジュエリーデザインに携わる方々の作品が広く世の中に知られることを願っています。

ジュエリーコンテストが少なくなっている現状ですが、今後もジュエリーデザインアワードを権威と格式あるものとし、活動を活発化させ、日本ジュエリー文化・産業の振興・発掘、そして人材育成を使命としてさらなる努力をしまいたいと思っています。

審査員 講評



東京都現代美術館 シニアキュレーター

関 昭郎 Seki Akio

近年、ジュエリーのパーソナルな性格はインターナショナルな言語となり得ると言い続けている。1990年代にアジアやアフリカのアートが注目されたが、それは彼らの作品のなかに日常生活から生まれた普遍的なメッセージが地域や人種を越えて理解されたのである。そして一人一人の持っている価値観から世界を見直すことの重要性は、私たちが今回の震災から学んだことでもある。

産業革命とフランス革命を経た19世紀のジュエラーたちは顔が見えない顧客たちに、誰もが受け入れやすい〈良き趣味〉のデザインを提案しはじめた。私はしばしばそこに物足りなさを感じる。ジュエリーがオーダーメイドに立ち戻るべきだと言いたいのではない。私が期待しているのは制作者の視点や美意識が十分に発信されることである。その意味で、特に日本ジュエリー大賞と厚生労働大臣賞の二作はいずれも評価できる。また、第四部門にも印象深い作品が多かった。今後も発見のあるジュエリー・デザインを楽しみにしたい。



卓越技能者

石井比功次 Ishii Hikoji

今回出品数の減少については致し方ないことだと思います。しかし内容については力を入れて応募された方たちのお陰で充実しておりました。

ただ内容の良いものとそうではないものの二極化が激しく、意気込み、実力、完成度に大きな差を感じました。第1部の上位4点がずば抜けており、技術面を見ても時間と神経を注ぎ込んだ甲乙つけがたいものでした。日本ジュエリー大賞の作品は総合点での決定ですが、世界に向けてという点では2位の作品は惜しかったと思います。

第2部の作品はやはり銀製品が多くみられました。2部、3部ともに提案性の作品が少なかったのが残念でした。

技術賞はなるべく他の賞との重賞を避けるという観点で選びました。

第4部は毎回楽しみにしているのですが、今回は過去にも似たような発想があった作品が多くみられたようです。

全体の感じとしてはJJAデザインアワードも回を重ね定着した感がありますが、応募者が固定化されてきた感は免れない事だと思います。

世界に向けて発信ということで個人的にはやはり応募作品は、Made in Japanであってほしいと思います。



ミセス ファッション・ビューティ編集長

落合眞由美 Ochiai Mayumi

「世界へ発信できる日本ジュエリーの最高峰を求めて」というテーマのもとに開催されているJJAジュエリーデザインアワードですが、「日本ジュエリー」の解釈を再度検討すべきだと思いました。あくまでも日本の文化にこだわり、それをデザイン、製作技術に取り入れるのか、あるいはクリエイターたちが日本の文化だけにこだわらず、自由な発想と技術力をもって日本で製作するのか。私は後者を支持します。なぜなら、ジュエリーのデザインの発想はあらゆるところから生まれ、今や技術もワールドワイドに修得できるからです。

とはいえ「日本のオリジナリティ」も大切。新たにこの部門を設定するのはいかがでしょう。日本の高い美意識に基づいたデザインと技術を明確な形でグローバルに発信することができたとしたら、日本ジュエリーのポジションは高まり、若いクリエイターたちの励みになると思います。さらなる発展を祈ってやみません。



社団法人日本真珠振興会 参与
木下 章 *Kinoshita Akira*

本年は3月に東日本大震災に見舞われJJAジュエリーアワードへの作品出品への影響も懸念されましたが、多くの作品が集まり無事開催されたことを嬉しく思います。

また今回のアワードにおいては、『絆』というキーワードの作品が数多く出品されていました。このことはいかに震災が日本人の心の中に大きなインパクトを与え、そして生命の尊さの大切さを再考させられる機会となったかのあらわれの結果だと思います。

日本真珠振興会会長賞を受賞した作品のテーマは、『いとなみ』。アコヤ真珠を使用し大海で力強く生きるサンゴの生命の誕生を表現された作品です。

10ミリを越えるようなアコヤ真珠も使用されたこの作品は、日本の真珠の美しさ、そしてその魅力を十分に引き出し、サンゴの生命力が見事に表現されています。

今後のアワードにおいてもアコヤ真珠の魅力を引き出した多くの作品が出品されることを楽しみにしております。



デザインディレクター
桐山登士樹 *Kiriya Toshiki*

ジュエリーデザインアワード2011は、新人からプロまで人材育成とジュエリー産業のレベルを上げる為の重要な機会となっている。時節的には3.11ほか様々な環境変化、経済変化の大波に影響を受けているが、確かな事はこの産業をどの視点で永続的な事業にしていけるかである。

審査に当たり一番気になった点は、誰につけて欲しいのか顔が見えない作品が多かった事だ。時代的には個性化多様化が進み生活者の価値観が変わった事により、固定的な概念や単なるデザインの上手い下手で通用する時代ではない。今日的ジュエリーにはトータルな提案がなくてはならない。その象徴として、3年前から注目していたNY生まれの個性派アーティスト、レディー・ガガをイメージして審査に当たった。これほどパフォーマンスに長けた女性はいないので、彼女に負けない個性的、且つ日本ならではのデザインを求めた。応募デザイナーの意識改革を求め、次年度へ繋がる事を期待したい。



ジュエリーコーディネーター1級有資格者
下池恵子 *Shimoike Keiko*

この度、JJAアワード審査に参加させて頂き、コンセプトである「世界へ発信できる獨創性あふれた先進的なデザイン」をキーワードに、発想や作り・バランスの精度、見栄えをポイントに審査させて頂きました。

各部門ともさまざまな作品があり、今年は震災の影響もあり応募数が若干減少したようですが、今後の日本のジュエリー業界に希望を感じる作品が幾つかありました。特に、日本ジュエリー大賞のネックレス、イヤリングは、繊細でうっとりするような作り、装着感、見栄え共に、大変すばらしいものでした。

他の受賞作品も、それぞれ共に作り手の情熱を感じました。ただ、もう少し競い合う作品が多くあると、このアワードを更に高めていけ、今後の日本の未来を担っていく逸材発掘の場になるのでは…と思いました。

ジュエリーは「身に着けてより輝くもの」「幸せな気持ちにさせてくれるもの」を大切に、今後も更なる作品を期待しております。



社団法人日本ジュウリーデザイナー協会 会長
菅沼知行 Suganuma Tomoyuki

震災の後、様々な場面で若い人の力を感じます。被災地の子供達は苦勞を顔に出さず明るく健気に大人を手伝っていました。その被災地や後方支援で大勢の学生や社会に出た若い人たちが各々の立場で知恵を出し合いボランティア活動をしています。このような若い人の目の輝きを見ていると日本の将来は間違いないと、希望が湧いてきます。

日本ジュウリーデザイナー協会（JJDA）会長賞は若い力の中から選出しました。今年の第四部門はとても力強く、将来性を感じさせる作品が多く出品されました。中でもJJDA会長賞の4点のリングシリーズは、樹脂を蜂蜜に見立てた着想が面白く、実際に指輪の中に溜められた「蜂蜜が美味しそう」に出来上がり、着想を見事に実現しています。ただ、他の出品者にも感じたことですが、作品完成後、応募前に出品点数をもう一度検討することが大切です。今回の場合4つ並ぶと少し単調に見えるように思います。是非、次の作品を見せてください。



ジュエリージャーナリスト
高木紀子 Takagi Noriko

「部門別内容、見直しの時期に」

総点数こそ少なくなりましたが、この厳しい時代にも応募された方々の努力を想いつつ、ダイナミックな表現、しみじみとした表現、マニアックな思い入れがつまった作品などを見せていただきました。特に第1部門の応募点数が少なかったのは、社会変化の中でシーンのイメージが把握しづらくなってきたこともあるのでは？アワード改称時に一新されたカテゴリーを、再び見直してもよい時期にきたと思われます。第1と第2の区分は、単独アイテムの新鮮な広がりを妨げているかもしれません。

今回は第4部門に応募数が多く内容も面白く、真鍮の美しさをプレーンな形でアピールした李賢基さんの新人大賞の他、平良司さんの宝石セッティング・形体・動きを総合した感性の技術力、竹中亜希子さんの形見のオパールからふくらませたデザインなどにも惹かれました。今は沢山の荷物を引っばって行くような時代。ちょっとした対策ではビクともしませんが、この先に待っている答えをみつけましょう。



文化学園大学 文化ファッション研究機構 教授
高木陽子 Takagi Yoko

日本人が洋服を着始めたのは明治になってからであった。一般の人たちは戦後まだ着物を着ており、洋服に切り替わったのはこの50年であろう。ジュエリー普及の歴史もほぼ歩みを同じくする。西洋をモデルとした半世紀が過ぎ、本アワードには「日本から世界へ発信する」課題が設けられた。日本が誇るべき要素とは、伝統的な技術、和の意匠、カワイイだけだろうか。歴史と文化の底に流れる普遍性を拾い出す余地は、まだまだありそうだ。

一方、国内にむけて。ファッションのカジュアル化は、もはや止めることができない。東日本大震災に続く原発事故の後、日本人は、「ふつう」であることの幸福を再認識している。今日のムードを、貴金属や宝石といった「非日常」の記号でいかに表現するか。第二部門を審査しながら、差別化のためのオブジェであったジュエリーが、「ふつう」を表現する難しさを感じた。消極的に考えず、別の価値を生み出す出発点と捉えよう。逆転の発想で、チャンスは十分にある。



ファッションデザイナー
花井幸子 Hanai Yukiko

今回の応募作品も楽しいものがたくさんありました。ジュエリーは、心をアップしてくれる大切なものです。私自身の事を申せば、宝石が大好きです。いつも三つは身につけております。毎日、今日はどれを付けようか楽しみながら宝石と親しんでいる人生です。

この様に服とともにジュエリーもライフスタイルの中で幸せな気分を提供してくれる生活美術だと思うのです。

作品の全体的印象は、シンプルなものが多かった様に思います。色石が少なかったのも残念でした。次回、ルビーやサファイヤ、アメジスト等の色石とダイヤを組合せたカラフルな作品なども見たいと思っています。

ジュエリーは身につけて美しく輝くもの。

この言葉とおりの素晴らしく、遊び心のある美しい作品に出会えます様、今後に大いに期待したいと思います。



社団法人日本ジュエリー協会 アワード実行委員会 ジュエリーデザイナー
山本真理 Yamamoto Mari

JJA アワード委員として数年間、審査会も携わってまいりましたが、応募数が年々少なくなっているのは大変残念です。又、素材もシルバーが多く時代を反映しての事でしょう。只、大きく高価な宝石が使用されていれば、美しいのは当たり前。輝きに惑わされず本当に“無”から生まれた“有”なのか？も、審査基準に致しました。日本から世界へ発信出来る創造性の高いジュエリーを…。というアワードの主旨がありますが、かねてより漆や蒔絵等日本の伝統工芸の技を活かす事だけでなく日本人の“魂”から伝わる様な“矜持”を感じる作品を…。と思っておりました。今回トップ四賞はそれに十分値する力量のある作品だったと感じております。以前委員会に“毎年似た様な作品が入賞する。”というご意見が寄せられました。着用性や美しさ、努力したであろう時間や思い入れの強さ等、他作品と比較し、過去との類似を考慮しても、入賞に値する作品が数点あった事を最後に付け加えたいと思います。

審査員一覧（審査員長以下50音順）

審査員長	関 昭郎	東京都現代美術館 シニアキュレーター
審査員	石井比功次	卓越技能者
	落合真由美	ミセス ファッション・ビューティ編集長
	木下 章	社団法人日本真珠振興会 参与
	桐山登士樹	デザインディレクター
	下池 恵子	ジュエリーコーディネーター 1級有資格者
	菅沼 知行	社団法人日本ジュウリーデザイナー協会 会長
	高木 紀子	ジュエリージャーナリスト
	高木 陽子	文化学園大学 文化ファッション研究機構 教授
	花井 幸子	ファッションデザイナー
	山本 真理	社団法人日本ジュエリー協会 アワード実行委員会 ジュエリーデザイナー
特別賞選定員	木下 章	社団法人日本真珠振興会 参与
	菅沼 知行	社団法人日本ジュウリーデザイナー協会 会長
	武者 智子	プラチナ・ギルド・インターナショナル マーケティング部トレード・コミュニケーション課 課長

■応募作品・点数

プロフェッショナルゾーン

第1部門	フォーマルシーン	11作品	24点
第2部門	カジュアルシーン	42作品	65点
第3部門	テーマ部門「パールジュエリー」	23作品	25点

新人部門

第4部門	新人部門	43作品	102点
		合計	119作品 216点

■入賞作品

33作品 75点

日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞
厚生労働大臣賞
東京都知事賞
日本ジュエリー協会会長賞

日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞

株式会社 桑山 製作者/応募者

Kuwayama Corporation

デザインプロダクト代表 西野 淳 デザイナー

“絆”

今ほど日本にとってこのキーワードが大切に感じられる時はないでしょう。繊細な光りを放つ8つの紋章は「無限・永遠」を意味し、まるで手と手を繋ぎ合うかの様な優しく柔らかなチェーンは、希望を胸に未来へと向かう人々の“絆”をイメージしています。

2006 JJA ジュエリーデザインアワード2006 都知事賞、プラチナ・ギルド・インターナショナル賞

2007 JJA ジュエリーデザインアワード2007 日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞
日本ジュエリー協会会長賞

2008 JJA ジュエリーデザインアワード2008 厚生労働大臣賞、優秀賞

2010 JJA ジュエリーデザインアワード2010 日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞、技術賞

ネックレス・イヤリングセット/K18 (YG・WG)/ダイヤモンド・アコヤ真珠



厚生労働大臣賞



松崎マナ デザイナー

Matsuzaki Mana

〔製作者〕 製作室・町田力太

〔応募者〕 有限会社 美術工芸松崎

「Zoi ～生命」

表面的に美しい装身具というだけでなく、そこに“いのち”が宿った作品にしたかった。既存の動植物の具象や特定の文化様式に一切頼らず、デザイナー独自のフォルムを追求。ジュエリー本来のアニミズム的存在意義を大切にし、生命という一見いびつで不完全な仕組の中に潜む美を表現。深遠なるテーマに挑戦した。

1999 立教大学法学部卒業

2001 KIDI 金沢国際デザイン研究所プロダクトデザイン科修了
渡米、ニューヨークのパーソンズ美術大学プロダクトデザイン科に学ぶ

2004 ヴィジョン・カウンシル・オブ・アメリカ主催「アイスタイルコンテスト2004」入賞
F.I.T. ニューヨーク州立ファッション工科大学ジュエリーデザイン科卒業

2006 オリジナルブランド「ラトレイア」発表



ネックレス・ハンドジュエリーセット/K18・Pt900/クリソベリル・パール/ダイヤモンド

東京都知事賞
プラチナ・ギルド・インターナショナル賞



梶 武史 デザイナー
Kaji Takeshi

[製作者/応募者] 株式会社 カジ・インターナショナル

[E-mail] kaji-international@orion.ocn.ne.jp

「絆 —toward the future— 未来へ向かって」
決して断つことのできない人と人の結びつきを「手のカタチ」で表現しました。羽ばたくフェニックスのようにも見えるフォルムは復活や希望への想いを込めています。2011年に起きた震災を背景に製作した作品です。

1979 東京生まれ
2001 GIA（米国宝石学会）G.G.（宝石学修了）称号取得
2005 株式会社カジ・インターナショナル CREATIVEチーム
2009 JJA ジュエリーデザインアワード2009
優秀賞、プラチナ・ギルド・インターナショナル賞
2010 JJA ジュエリーコーディネーター2級取得



リング・ネックレス・ピンブローチセット/Pt900/ダイヤモンド

日本ジュエリー協会会長賞



青木麻耶 デザイナー
Aoki Maya

[製作者] 岩崎裕司
[応募者] 株式会社 今与
[E-mail] m-aoki@imayo.co.jp

生命が織り成す恵みの川、古から都を守る川である京都の保津川。その川の流れを京くみひもと天然石やパールなどの異素材の融合で、自然と生命の結びつきを表現致しました。パールは岩肌や木々の山の色。結びは芽吹く新緑と川の青を象徴的に表現しました。川流れの水面の美しい流線を大胆な彫り留めのデザインや、京くみひもで。夜空に舞う蛍を輝くチェーンで再現致しました。

1984 京都生まれ
2008 大阪美術大学デザイン学部卒業
2010 JJA ジュエリーデザインアワード2010 入選



ペンダント・ピアスセット/K18WG・絹糸/ダイヤモンド/パール

プロフェッショナルゾーン
第1部門
フォーマルシーン

佳作 技術賞



ネックレス・ピアスセット/K18WG/ダイヤモンド/シロチョウ真珠・クロチョウ真珠

川崎達彦 デザイナー/製作者

Kawasaki Tatsuhiko

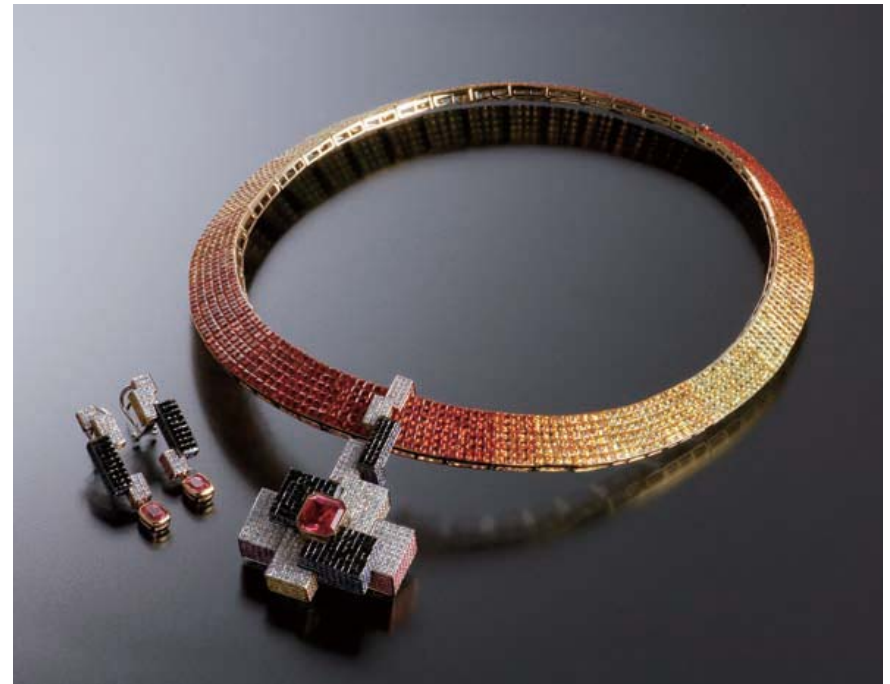
[応募者]

株式会社 パルサーエンタープライズ

[E-mail] pulsar-ent.8880@nifty.com

苦勞をしたところは、ブラックダイヤのパ
ヴェの配置です。グロテスクにならないよ
うにしました。それから左右の絡みのバラ
ンスとぶら下げる真珠の位置でした。

佳作



ネックレス・ピアスセット/K18 (YG・WG・PG)/ロードクロサイト/ダイヤモンド・サファイア

中島彩乃 デザイナー

Nakajima Ayano

[製作者] 株式会社 イマックビーシー

[応募者] 株式会社 彩

[E-mail] aya-77@nifty.com

「COMPOSITION」

今まで出合った中で一番きれいな、スイー
トホーム鉱山産のロードクロサイト。この
石を引き立たせるため、K18で縁取りをし、
白と黒のダイヤで長方形をつくり、周りに
配した。またどの方向から見ても長方形の
構成が楽しめるよう、側面などにもカラー
サファイアをあしらった。

入選



保坂恭子
Hosaka Kyoko

リング・ピアスセット/Pt900/ダイヤモンド

プロフェッショナルゾーン
第2部門
カジュアルシーン

優秀賞



加藤貴子 デザイナー
Kato Takako

[製作者] メタルクラフト ZiZi
[応募者] Jewelry & Art KiLaLa
[E-mail] ki-lala@star.ocn.ne.jp

「ホワイトタイガー」

ホワイトタイガーは、世界中で神聖な動物とされ、特に尻尾に触れると幸運に恵まれると言われております。WGのラインを生かし、その中に隠れたパールのお洒落さを。手足の揺れる遊び心の中に、自由さを表現しました。カジュアルなパーティー、友人の茶席、お買物にと楽しく付けてお出掛けしたくなります。

1973～東京フラワーアカデミー全国コンテスト1位

中日大賞 金賞

青山リボン大賞 色彩賞 等々

1984 高級陶器「花車」店長

1994 Jewelry & Art KiLaLa創立

2007 タヒチアンパールトロフィージャパン2007 ネックレス部門2位

2008 JJAジュエリーデザインアワード2008

日本ジュエリー大賞・経済産業大臣賞

2009 JJAジュエリーデザインアワード2009 厚生労働大臣賞



ペンダント・イヤリングセット/K18WG/ダイヤモンド/シロチョウ真珠

佳作 技術賞



リング・ペンダントセット/K18YG・Pt900/ダイヤモンド

クリエイティブチーム **梶 真起** デザイナー
チーフ *Kaji Masaki*

[製作者/応募者]

株式会社 カジ・インターナショナル

手に手をとっている様をあえて具象的に表すリングのデザインは、誰にでもわかりやすく、ただシンプルに想いを一つにすれば素晴らしいものを生み出すということを伝えています。また、ホイッスル付きペンダントトップは、このことを今一度私達のハートに呼びかけ、未来につなげて欲しいという想いを込めてデザインしました。

佳作



ピアス・ネックレス・リングセット/Ag925/クォーツ/ダイヤモンド

名取洋佑
Natori Yasuke

「過現未」

ダイヤ、ブラックダイヤの原石を砕き、カット石を水晶の下にセットした。中の石が動き、見るたびに表情が変化するのでいつでも違いが楽しめる。

入選



リング/Pt900/ダイヤモンド

島村弘美 デザイナー / 応募者
Shimamura Hiromi

[製作者] 内田博紹
[E-mail] with-art@aroma.ocn.ne.jp



リング・ブローチ*ペンダントセット/K18 (WG・YG)・Pt900・紫銅/ダイヤモンド

中村孝則 デザイナー / 製作者
Nakamura Takanori

[応募者] 中村宝飾工芸



リング*ペンダント*タイ止めシリーズ/Ag925・Ag950

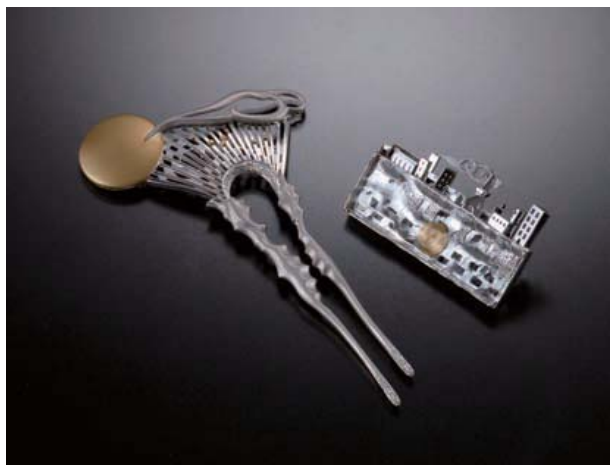
田中紀久
Tanaka Norihisa



リング・ペンダントセット/Pt900・K18/ダイヤモンド

和地妙子
Wachi Taeko

入選



かんざし・帯留めセット/K18・Ag925/ガラス

石原マキ

Ishihara Maki

[E-mail] gavidro@piano.ocn.ne.jp



ブローチシリーズ/Ag1000・Ag925・Cu

三ツ橋涼太

Mitsuhashi Ryota



ペンダント・リング・ピアスセット/K18WG/ダイヤモンド

平田清子 (SAYAKO) デザイナー / 応募者

Hirata Sayako

[製作者]

株式会社 プレシヤスメタル・ニッコー

[E-mail] b_elle_bi_0808@yahoo.co.jp

プロフェッショナルゾーン
第3部門
テーマ部門「パールジュエリー」

優秀賞
日本真珠振興会会長賞



中尾美穂 デザイナー
Nakao Miho

〔製作者/応募者〕 株式会社 ナガホリ

寄り添い大海に生きるサンゴをモチーフに真珠色に輝く新しい生命が息吹く様を表現致しました。世代を継ぐ美しくも力強い営みが永遠に続きますようにと願いを込めて……。クラスプ部分の小さなサンゴは取り外してペンダントとしてもお使いいただけます。

1984 武蔵大学人文学部卒業
1987 赤坂宝石彫金学院卒業
2007 タヒチアンパールトロフィージャパン リング部門1位・grazia賞
2008 JJAジュエリーデザインアワード2008 東京都知事賞
2010 JJAジュエリーデザインアワード2010
東京都知事賞、日本真珠振興会会長賞



ネックレス・イヤリングセット/K18 (WG・PG)・K14WG/アコヤ真珠/ダイヤモンド

佳作



リング/K18WG/アコヤ真珠/ダイヤモンド

小笠原麻子 デザイナー

Ogasawara Asako

[製作者/応募者] A・OCCHIO

[E-mail] asa@a-occhio.com

360°どこから見てもデザインされているジュエリーを常に心がけています。東日本大震災では被災者の方はもちろん、日本国民が大きな悲しみに包まれました。様々な想いや勇気がシャボン玉のように次々と溢れ出るイメージをパールで表現しました。この作品をご覧頂いた方々が、ひと時でも心とんでくれるならば本当に嬉しいです。



リング/K18 (WG・YG)/パール

山本晋平

Yamamoto Shinpei

花がもつ人を癒したり、元気にしてくれる生命力を、リングで表現したく、指にして花を傾けたり、様々な角度を変える事で、真珠が持つ美しさを楽しめるようにデザインしました。

入選 技術賞



リング/K18WG/シロチョウ真珠/ダイヤモンド・ルビー

島村弘美 デザイナー/応募者
Shimamura Hiromi

〔製作者〕 丹澤昌二

〔E-mail〕 with-art@aroma.ocn.ne.jp

広大な宇宙に浮遊している惑星をモチーフにし、それにその空間に発生するエネルギーの波動や惑星の軌道等の神秘的パワーをイメージしたものを合わせてデザインしました。パールが宙に浮いて見えるように工夫しました。

入選



リング/K18YG/アコヤ真珠・淡水真珠/トパーズ・ダイヤモンド

内藤詩子 デザイナー / 応募者

Naito Utako

[製作者] 田中良和

[E-mail] santakun@dab.hi-ho.ne.jp



ペンダント/K18YG/シロチョウ真珠

菅原節子

Sugawara Setsuko



ブローチ*ペンダント・イヤリングセット/K18 (WG・YG) /パール/ダイヤモンド

吉田園子 デザイナー

Yoshida Sonoko

[製作者/応募者]

栄光時計株式会社 広島営業所



第4部門
新人部門

新人大賞
日本ジュウリーデザイナー協会会長賞



李 賢基
Lee Hyun Ki

「はちみつ」

手の上に滴り落ちた蜂蜜をイメージしてデザインしました。盛り上がった樹脂はレンズ効果を生み、角度によって様々な色味と表情を見せます。蜂蜜という具象モチーフを、抽象的に表現することを強く意識しました。

1990 韓国 ソウル生まれ
1992 山梨県へ移住
2009 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ 入学
2011 フレッシュマンジュエリーデザインコンテスト2011 入選



リングシリーズ/真鍮/樹脂/(金めっき)

新人優秀賞



リングシリーズ/Ag950/合成スピネル・合成ルビー・キュービックジルコニア



平良 司
Taira Tsukasa

作品を制作する前に2つの決め事を考えました。
まず1つ目は、既存の石留めではなくオリジナル
の石留め方法を考える事、2つ目は、平打ちリン
グと丸線の組み合わせのみでデザインする事、こ
の2つの制限の中でどこまで出来るのかに挑戦し
ました。

1983 兵庫県生まれ
2008 第12回パールジュエリーコンテスト 特別賞
2009 日本宝飾クラフト学院大阪校卒業
2010 JJA ジュエリーデザインアワード2010 入選



リングシリーズ/Silver



大岩友理
Oiwa Yuri

[E-mail]
yurioiwa@yahoo.co.jp

この作品は、紙の層と、その隙間をモチーフにし
ています。

そして、見たときに楽しめるように、様々な形の
花びらのディテールを取り入れました。荒し鉋で
叩いた0.3ミリ厚の銀板を重ね合わせてろう付け
し、最終的にサンドブラストで表面を荒して、味
わい深い質感を目指しました。

1986 愛知県生まれ
2011 武蔵野美術大学卒業

新人優秀賞



リング/K18YG/オパール・クォーツ/ダイヤモンド



竹中亜希子
Takenaka Akiko

「雪の華」

水晶を覗くとオパールが輝いてみえます。祖母の形見のオパールです。「新潟という寒い地で、2月に産まれた祖母」を雪の中に咲く花にみたて表現し、雪解けによって大切なオパールが現れるという意味を込めました。オパールには「物事を変化させ幸運をもたらす」という意味があるそうです…

1974 横浜生まれ
1995 大妻女子大学卒業
……モデル13年間……
2009 ヒコ・みづのジュエリーカレッジ入学
全国ジュエリー・アクセサリデザイン画コンテスト 入選
JTOジュエリーデザインコンテスト 特別賞
2010 全国ジュエリー・アクセサリデザイン画コンテスト 入選
ヨコハマジュエリー・アクセサリデザインコンテスト 佳作

入選



ペンダント/Silver/キュービックジルコニア/人造真珠

蒔田祐輔
Makita Yusuke



ネックレス/ステンレス/サファイア/石英ガラス

佐藤大明
Sato Hiroaki

[E-mail] lithosphere@mail.goo.ne.jp



リング・ブローチセット/Silver

大岩友理
Oiwa Yuri

[E-mail] yurioiwa@yahoo.co.jp



リングシリーズ/Silver/(金めっき)

谷内和代
Taniuchi Kazuyo

[E-mail] aquavenus-511@jcom.home.ne.jp

入選



山田命佳
Yamada Michika

リングシリーズ/Ag950/トパーズ

| 社団法人 日本ジュエリー協会

| アワード実行委員会

| 実行委員長

梶 光夫

| 委 員

坂巻 章雄

高橋 博文

松井 久子

松崎 憲子

山本 真理

横山 裕

■編 集

社団法人 日本ジュエリー協会 アワード実行委員会

■撮 影

Studio A-Vipc

■印 刷

山口北州印刷株式会社

■発行日

2011年9月1日

■発 行

社団法人 日本ジュエリー協会

〒110-8626 東京都台東区東上野2-23-25

TEL (03) 3835-8567 FAX (03) 3839-6599

<http://www.jja.ne.jp> E-mail:ja@jja.ne.jp

禁無断転載複写

